

# いのちの泉

カーメルバプテスト教会  
日本人ミニストリー月報  
2003年7月号

ハレルヤ！主の御名を賛美します。

カーメルバプテスト教会で Jim Russell 先生による日本人ミニストリーが始まって5年近くになるうとしています。そこに集うグループは相変わらず小さなグループですが、その間に主は Russell 先生を始め、李先生、音楽の才能に恵まれた根本兄と、次々に送って下さり、今年は Joel Lovestrand、高見憲次の両先生を送って下さいました。

Lovestrand 先生は、ご両親がインドネシアやフィリピンなどの国々で長年働かれ、幼い時から外地で暮らされたからでしょうか、わずか4年の日本暮らしにもかかわらず、大変美しい日本語でメッセージを語って下さいます。また、東京の神学校で教壇に立たれ、長年日立市でご自分の教会を持たれて牧会をしてこられた高見先生は、豊かな知識と決して押し付けることのない語り口で日曜日のバイブルスタディーを担当して下さいました。私は事情があつて高見先生のバイブルスタディーに今のところ半分位しか出席できずおりますが、7月6日にはアメリカの独立宣言がガラテア書とロマ書をベースにして起草されたことで、両書を通して“自由”について話されました。

パウロの宣教により一度はキリスト・イエスに結ばれたガラテアの人々が、短期間の間に他の福音に乗り換えようとしていることに対するパウロの心の嘆きが、高見先生の講義を聞いている間に私の心の中に浸透してきて、涙がこぼれそうになりました。それは即ち、パウロの心の痛みが私自身に対するものを感じられたからでしょう。

信仰とは、能動的、受動的なもので「御霊（主）によって生きる（能動的—主を信じるかどうかは自分が決めること）+御霊（主）によって導かれる（受動的）」この両方で成り立つこと。またヨハネによる福音書13：34「互いに愛し合いなさい。私があなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」（新共同訳）が実践できるようになるために、主は時として私達に重荷をお与えになることなど、分かり易く教えて下さいます。

最近、貸しビデオで Roman Polanski 監督の「The Pianist」という映画を観ました。物語は1940年、ポーランドのワルソーから始まります。と言えば大体の想像はつくと思います。ワルソーに住むユダヤ人達が侵入してきたドイツ軍によって、大変な迫害を受け、アウシュビッツに送られる列車に乗る寸前にドイツ兵によって引っ張り出され、生き永らえたワルソーでは有名なピアニストの話です。戦争中生死の間を彷徨いながらも、善良なポーランド人に助けられて何とか生き延び、最後は廃墟と化した街中であつて、やっと見つけた余り破壊されずに残っていたビルの中で、飢え死にしそうになりながら隠れて住んでいるところをドイツの将校に見つかり、自分の人生もこれまでかと思った時にその将校から、そこにあつたピアノを弾くように言われます。それまでの言語を絶する生活、ピアノへの渇き。彼が全霊を尽くして弾いたピアノに、将校は人間的な心を取り戻したのか、時々パンのかたまりやソーセージなどを持ってきては、そっとピアニストに与えてくれます。そして、ワルソーに進駐してきたソ連軍によって後数週間で戦争が終わるから、と教えてくれます。「私はあなたに何とお礼を言ったらよいのか・・・」というピアニストに、将校は「私にではなく、神に感謝を」と言って、自分の着ているコートをピアニストに与えて雪の中を去って行きました。これは実話で、このドイツ将校は1952年にロシアの監獄で亡くなり、ピアニストは生涯ワルソーを出ることなく2000年7月に88歳の命を終えました。



交響楽団の一員として、満員の聴衆の前で演奏するピアニストの姿は、曲と共に深い余韻を残してくれました。人間の地獄を経験してきたピアニストはどんな音色を奏でるのか、私は彼のピアノをぜひ聞いてみたいと思います。ピアニストの名前は、Wladyslaw Szpilman。もし、彼のテープあるいはCDを見つけた人がいたらぜひ教えて下さい。



ジョエル・ラブストランド牧師のメッセージ 「愛に根差しているクリスチャン」 エペソ3章

ある時、父は、インドネシアで宣教師として奉仕していて、逮捕され、刑務所に入れられた時の経験を話してくれました。その間、聖書を読む時間が沢山与えら

れたそうです。自分を自分で解放することは出来ませんでしたし、家族や教会の世話も出来なかったので、祈らざるを得ない状態にありました。

エペソ人への手紙は、パウロが囚人生活の中で書いた物です。パウロは囚人なのでエペソの教会を訪ねることができませんでした。手紙を書いたり、祈ったりすることしかできませんでした。そういう状態にあるパウロは祈った時何を願っていたでしょうか。この3章14節～19節に書いてある祈りをよく見ると、主な願いはエペソの信者がキリストの愛を知ることができるようにということです。17節の後半から御覧下さい。エペソの信者に必要なことはキリストの愛を知ることでした。私達に必要なのも同じです。今、二つの質問について考えて頂きたいと思います。第一問は、なぜキリストの愛を知ることが必要なのだろうかということです。そして第二問は、どうやってキリストの愛を知ることができるのだろうかということです。

なぜキリストの愛を知ることが必要なのでしょうか。まずキリストの愛を知るとは私達を安心させてくれます。第一ヨハネ4章18節をご覧ください。私は以前、この聖句を読む度に、自分の愛が自分の恐れを締め出すという風に解釈しましたが、今考えてみると、神の完全な愛も私達の恐れを締め出します。自分が愛されている確信を持っていたら安心できます。第一ヨハネ4章16節をご覧ください。この、神との信頼感は恐れを消してしまいます。神の愛を知っていたら神を信頼できるはずです。

人が順調に成長できるためにはキリストの愛が与えるような安心感が絶対に必要です。十三世紀にドイツの王であったフレドリック五世が人間の生得の言葉は何であるかを調べるために実験をしたそうです。彼は乳母や保母が何人かの赤ん坊に乳を飲ませて時々お風呂に入れるように指示しましたが誰も子供に話し掛けたり子供と遊んだりすることを一切禁じたそうです。その結果、全員死んでしまいました。自分を可愛がる人がいなければその赤ちゃんは生きられませんでした。

愛が与える安心感は肉体的な命にも霊的な命にも必要です。霊的に成長できるようにキリストの愛を知らなければなりません。キリストの愛を信頼すればするほど霊的な力がついてきます。そして周りの人を愛することができるように、キリストの愛を知ることから来る安心感が必要です。神に愛されたと確信できれば、大胆に人を愛することができるはずです。しかし、自分が愛されているという確信がないと、他の人を愛するのは難しくなります。なぜなら自分の愛する人が、その愛を受け入れない可能性があるからです。そうすると自分がだめなのだと思うかも知れません。しかし

精神的に安全な状態にあれば、そのような人でも愛せる余裕があります。アメリカの教会では「私は愛されています」という歌を時々歌います。その歌詞はこうです。「私は愛されています。あなたは愛されています。私はあなたを大胆に愛することができます、私を一番良く知っておられる方が私を一番愛しておられるのですから。私は愛されています。あなたは愛されています。手を握って下さい。私達は愛されているから互いに愛し合えるようになれます。」キリストの愛を知るとは自意識に大きな影響を与えます。自分の身分は神に愛された者ということになります。使徒ヨハネは、自分のことを「イエスが愛された弟子」と言いました。



安心が与えられるからということ以外にキリストの愛を知ることの必要な理由がいくつかあります。キリストの愛は日常生活に必要な確信を与えます。困った時に神が見ておられご自分の愛する子供を決して忘れられないと分かたら力づけられます。

そして本当の愛がなんであるかを知るためにキリストの愛を知ることが必要です。本当の愛は神から出るものです。(1ヨハネ4:10)このキリストの愛は私達の模範です。イエスは私達に愛の本当の意味を教えられました。第一ヨハネ3章16節にこう書いてあります。「イエスは、私達のために、命を捨てて下さいました。そのことによって、私達は愛を知りました。だから、私達も兄弟のために命を捨てるべきです。」キリストの愛は献身的な愛です。

そしてキリストの愛は無条件の愛です。ローマ書5章8節にこれが明らかにされています。「しかし、私達がまだ罪人であった時、キリストが私達のために死んでくださったことにより、神は私達に対する愛を示されました。」私達の隣人が誰であっても、その人を愛すべきです。

町内会恒例の新年会の時、その会場の壁に張ってあった紙に「隣人愛を大切にしましょう」というようなことが書いてありました。近所で隣人愛を大切にしている教会と言われたら素晴らしいですね。ヨハネの福音書13章35節によるとイエスの弟子の印は互いに愛し合うことです。他の人を愛することも大切ですが、キリストの無条件の愛は教会の中の人にも施すべきです。

そしてエペソ3章の19節にキリストの愛を知る理由がもう一つ書いてあります。「人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」キリストの愛を知っていたら神に満たされます。ヨハネの第一の手紙4章16節に同じようなことが書いてあります。「私達は、私達に対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。」神の愛が人の心にあったら、神ご自身がその人の心におられます。そして神の愛に満たされれば満たされるほど、神のご臨在が明らかになります。

ではキリストの愛を知るのがそんなに大事なら、どうやって知ることができるのでしょうか。まずキリストを信じなければなりません。17節をご覧ください。「こうして、愛が私達の内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世で私達も、イエスのようであるからです。」私達は一度イエスを信じたら聖霊が心に住んでおられますが、17節に書いてある祈りはクリスチャンに関する祈りですから、ただ聖霊が心の中におられると言うことではないと思います。御霊が全ての信者の中におられますが、御霊の満たしは人によって違うと思います。クリスチャンになった時にイエスを信じたと同じように、毎日イエスを信頼しなければなりません。イエスに対する信仰を持たば持つほどイエスの命と愛を深く知ることができます。そして、この信仰に必要なのは御言葉を聞くことです。ですから御言葉を聞くこともキリストの愛を知る方法



です。ローマ人への手紙10章17節に「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」と書いてあります。この箇所は初めてイエスを信じる人についてですが、長い間キリストを信じている人にも適用できると思います。神の言葉を知らないなら、神の言われたことを信じる事が出来ません。神の愛を知るのに特に役立つのは神の愛についての聖句でしょう。エレミヤ31:3、ゼパニア3:17、ヨハネ3:16、13:1、15:9、16:27等等。聖書の最初から最後まで、神の愛について色々書いてあります。

そしてキリストの愛を知るのに祈りも大切です。3章の最後の所はパウロの祈りですから当然ですが、忘れてはいけないことだと思います。他のクリスチャンのために、そして自分のために祈りましょう。教会のために祈る時、「愛に根差し、愛に基礎を置いている」私達が「全ての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができるように」祈って下さい。

そしてキリストの愛を知る方法がもう一つあります。それは他のクリスチャンと交わりを持つことです。兄弟姉妹の愛を通して神の愛を感じます。私達を愛する兄弟は神の愛の贈り物です。それだけではなく、私達が愛する兄弟も神の愛の贈り物です。2節をご覧ください。「あなた方のためにと私が頂いた、神の恵み」とパウロは書きました。パウロは神様から頂いた特別な賜物によって多くの人に神様の愛を示すことになりました。兄弟に愛されることも、兄弟を愛して奉仕する特権が与えられたことも、神の愛を現わします。私達がこの家族に置かれたのは神の恵みによるのです。

### 心のマッサージ

一人の婦人が医師に相談した。

「主人がもしかして重大な病気にかかっているのではないかと心配です。私がずっと話しかけているのに、全然聞かえていないことが多いのです。」「奥さん、それは病気ではありません。ある種の賜物と言って良いでしょう。」

「天国にはどうも、女性が1人もいない様子ですよ。」「え、どうしてそんなこと言えるんだい。」「今ちょうど黙示録8章1節を読んでいたんだ。ここに、『天に半時間ばかり静けさがあった』と書いてあるよ。」

「どうせ信仰をテストされるのなら、ペーパーテストの方が良かったんだけど.....。」ヨブ

### ウォーキング銀座

先日、カンサスシティへ家族連れで小旅行をした。セントルイスから真西へ二百七十マイルの処にある。肥沃な大平原、コーン畠と大豆畠とが続いている平原を走った。地平線がコーンの穂波であったり、大豆畠の緑であったりした。

中村支州子



この町は農産物の集散地で、田舎町だろうと余り期待しないで出かけたのであった。ところが、私達の泊まったホテルをはじめ、その周辺の美景に驚嘆させられた。全くヨーロッパ的風景が展開したのである。ビルディングと言うビルディングは彫刻で埋まっている。高い塔が各所に見える。そのカラーと言い、ヨーロッパ中世の建築を思わせるものがあつた。街の到る処にブロンズ像と噴水があり、ショーウィンドウのデコレーションも芸術的で斬新なものばかりで、古くて新しいアメリカを見たような気がした。

ホテルの朝食前にひと歩きしようと一人で外に出ると、身にしみるようなさわやかな涼風が吹き抜けて行った。私は大噴水のあるパークへ向かって歩いた。パークに近づくにつれて老若男女、ショートパンツにティーシャツの軽装の人々が三々五々歩いていた。ここにも初老のご夫婦が手をつないで歩いていた。「ハーイ！ベアリーナイスデイ!!」この街の素晴らしさを讃える思いを込めた挨拶をしながら行き交った。きっと私と同じく、旅行に来た人達だろう。ヨーロッパ的武者絵を再現したような馬上の荒武者が、怪獣を射止める瞬間のすさまじい姿を等身大より大きなブロンズ像にし、それぞれに異なるものが四体も水面に浮かんでいる。

それらに、どこからともなく噴出する水が四方八方に交差し、飛び散る様はまことに見事であった。若い女性の2人連れにシャッターを切ってくれと頼まれて、私は快く写真機を手にした。水辺にも芝生にも歩く人々が増えて来た。歩け歩け！ここもまた、ウォーキング銀座であった。歩け歩け、九ちゃんの歌を思い出した。今、世界中の人々が、それぞれの朝の光の中を歩いていることだろうと思った。



厚年のひろばの健康欄にも、歩け歩け、とにかく歩くことだと結んであつた。さわやかに老いる知恵という本にも歩け歩け、歩くことは身体健康だけでなく、ストレス解消、心の健康にも効果があり、室内のエクササイズ用の自転車などでは得られない心の健康をもたらしてくれるとあつた。まさにその通りである。

アメリカの水や空気のおかげで、私は健康を取り戻した。しかし、日本にも清い水とさわやかな空気が一杯あつた筈である。それなのに私は日本にいる間中、医者薬を飲まない日とはなかつた。そのまま日本にいたら、薬漬けの一生を送る運命だったに違いない。今の私の健康は、アメリカに来てから毎朝良く歩いた賜物であると思う。歩くことにより心身共に健康回復し、医師の薬を飲むこともなく健やかな日々の消光である。

## ノアの大洪水 10

進化説を唱える人々は、カンブリア紀以降の地層は長い年月を経て堆積したと信じています。カンブリア紀以降の地層というのは、化石を含む地層のことです。進化説では、カンブリア紀に地球上に生命が誕生し、それ以降の地層には化石を含み、当然ながら生命誕生以前の地層には化石を含まないと説明しています。その化石を含まない地層は、先カンブリア期地層と呼ばれています。

地質学で地層の年代を決定するには進化説が決定的な役割を果たしています。と言うより、地質学は進化説を前提として成り立っていて、年代決定にあたってまず、地球に生命が誕生したのは何十億年前であると推定します。それからどれくらい経って三葉虫に進化した。また、どれくらい経って両生類が出た。更に鳥類が出た、馬が出た、猿が出た、そして類人猿が出たと、年代を推定して表を作っています。そして、ある地層で化石が発見されると、その化石が、その年代表の中のどの年代なのかを見つけ、それに基づいて、その地層はジュラ紀の地層であるなどというように決定するのです。これが基本的な地層の年代決定法です。

つまり、推定に基づいて年代表を作り、その年代表に基づいて地層の年代を決定するのです。（より定量的に決定しようと放射性同位元素を使うこともあります。が、これにも、仮定を前提にするという不具合があります。）

私の父は若い時地質学を学びました。私が子供の頃、冗談か本気か知りませんが、金鉱を見つけてやろうと思ったと言っていました。それから20年以上も経っていたのに、地質年代を順番に唱えたりしていましたが、きっと好きであつたに違いありません。お陰で私も覚えてしまい、今でもカンブリア紀以降の地質年代は暗誦できるほどです。

その父に私は尋ねました。地質年代を決定するのに、その地層から発見された化石を指標に用いるのなら、その指標になる化石の年代はどのように決定されたのかと。父は色々調べてくれましたが、結局「分からん」と言いました。

面白いことに、ある化石が発見された場合、それがどの年代の化石であるのかを決定するのは、普通それが

発見された地層がどの年代の地層であるかによります。化石が発見された地層と良く似た、指標となる地層の年代によって、その地層の年代が決定され、その年代が化石の年代とされるのです。結局、地層の年代を決定するのに化石を使い、化石の年代を決定するのに地層の年代を使うという、どちらの方向にも相対的な決定法であり、つまりは進化説という仮説に基づいて、進化を推定した、二重に不確実な方法なのです。



それだからこそジュラ紀という人間が地球上に存在しなかった（と自分達が言っている）地層から人工の道具が発掘されたり、恐竜の化石と人骨が同じ地層から発見されたりする事実の説明がつかないのです。

進化説を唱える人々が、長い年月を経て堆積したと信じているカンブリア紀以降と言われる地層は、実は、ノアの洪水と、それに伴う地殻変動によって、ごく短時間の内に、具体的には約1年ほどで形成されました。ですからカンブリア紀だのジュラ紀だのという年代分けには大した意味はなく、洪水の時に先に堆積したか後だったかというだけの違いなのです。そうと分かればジュラ紀の地層から人工物が出ることも、恐竜と人間の骨が同じ地層から出ることも、何の問題もなく説明がつかます。

進化説を信じる人達は、化石は、動植物の死骸の上に土砂が堆積し、さらに次々に土砂が堆積して、その圧力で骨や歯が石化してできると説明します。しかし、いかに硬くても長い時間土中にあれば木は朽ちてしまうし、骨や歯でさえ自然現象によって土砂が堆積するほど長時間放置すれば風化してしまいます。そうではなく、化石はごく短時間に形成されたのです。生きた動植物が突然、大量の土砂に覆われ、一気に押し潰されたために土中に形が残ったのです。また化石は多くの場合集団で発掘されますが、そこは動物の墓場なのでしょうか。どの動物も死期を悟り一個所に集る習性があるのでしょうか。そうは考えられません。水場や食料の豊富な地域に群がっていた動物達が一気に土砂に覆われたのです。

そのような現象はどのような時に起きるのでしょうか。一つの可能性として一部の人達が唱える大規模な土砂崩れが考えられますが、それで生き埋めになってしまう動植物がどれ程いるのでしょうか。動物は非常に敏感で、敏捷に反応します。世界各地で発見される化石がどれもこれもそのような土砂崩れの犠牲者達であると

は考えられません。洪水で押し流された動植物はどうでしょうか。局地的な洪水では、動植物の死骸を化石にするだけの圧力を提供できるだけの山のような土砂が、その上に堆積するとは考えられません。

そう考えると世界的規模の地殻変動によって、土砂崩れと同様の現象があらゆる場所で起こり、動植物を一気に、一度に埋めてしまったと考えなければ説明がつかずません。つまり、世界各地で発見される化石のほとんどは、ノアの洪水の時の地殻変動によって水中に沈んだ動植物の上に土砂が覆い被さって死骸を埋めてしまった結果できたのです。化石は長い年代にわたっているのではなく、一時にできました。ですから化石によって地層の年代を推定するのはナンセンスです。

私達がお世話になっているガソリンやプラスチックは動物の死骸から出た油から取られていると言われていいます。石油やガソリンが化石燃料といわれる所以です。仮に、説明されているように、動物達の死骸の上に長い時間の経過によって土が堆積し、その土の重さによる圧力と温度で死骸の油が絞り出され、処理されたとした場合、長い年月がかかるのですから、油が搾り出される前に動物の死骸は腐敗してしまうのではないのでしょうか。仮にゆっくりと油が搾り出されたとして、個々の死骸から出た少量の油が、どうして油田と言われるほど一個所に溜まるのでしょうか。

しとしとと降る雨はかなり長い間降っても大きな水溜まりにはなりません、どしゃ降りの雨はすぐに水溜まりを作ります。同様に、青草の生い茂る楽園で平和に過ごしていた動物の集団が、突然起こった洪水と地殻変動によって、一気に厚い地層の下敷きになってしまったからこそ、土の重さによる圧力と温度で死骸の油が絞り出され、処理され化石燃料となり、油田といわれる地域に集中しているのです。巨大な圧力によって彼らの身体から絞り出された油分が、巨大な圧力と熱で短時間に処理されて今日私達が利用できる状態になったのです。何万年もかかったのではありません。

テキサスや中国、中東の油田地帯は、洪水の後に再び隆起した地域であり、北海や南沙群島の油田地帯は隆起しなかったか沈降した地域です。いずれにしても、これらの地域は、洪水前には恐竜を始め多くの動物達がいた所です。特に中東地域は、エデンの園のあった場所に近く、沢山の動物達がいたために、地下に豊富な原油を持つ地域となったのではないのでしょうか。

片山進悟

## お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山順子姉704-843-8038。

毎週日曜日午前9時半からA231号室で、高見憲次兄による日曜学校が、また月曜日夜7時からはA238号室でラブストランド牧師による聖書の学びが行われています。皆さんも世界のベストセラー、聖書を通して、人生について一緒に学びませんか？

日本語による礼拝は、第1を除く日曜日の11時からR205で、ラブストランド牧師によって行われています。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立てるための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。

Carmel Baptist Church の Japanese Ministry 宛、または [charlottejpn@hotmail.com](mailto:charlottejpn@hotmail.com) にお願ひします。

カーメル・バプテスト教会  
1145 Pineville-Matthews Rd.  
Matthews, NC 28105  
<http://ifc26.tripod.com>

エホバの証人（ものみの塔）、モルモン教、統一教会とは関係のない、正統的なキリスト教会です。安心して気軽においで下さい。

李牧師 (704-847-8575)  
ラブストランド牧師 (704-849-8851)  
高見憲次兄 (704-523-5555)  
片山進悟兄 (704-843-6298)